

# 土木・コンクリート工事業

ケース

0社 中国地方

## 1 事業所概要

コンクリートブロック工事、一般土木工事が主たる事業。従業員数16名、うち知的障害者11名。

## 2 障害者雇用への取り組み

昭和30年代、前社長が養護学校の先生から、中卒が金の卵といわれている時代ではあるが、養護学校の卒業生は就職先がないとの相談を受けたことから、昭和35年に知的障害者の自立と実習の場を確保することを目的に、建築用コンクリートブロック製造工場として創業した。創業当時は行政からの援助がほとんどない中での運営であったが、好景気の後押しで一時は30名を超える障害者を雇用していた。

しかしその後は、景気の浮沈の中で、何度か倒産の危機も経験したが、昭和61年に建築用コンクリートブロック製造工場を閉鎖してブロック工事、土木工事を主体とした企業として現在に至っている。

現在抱えている課題は、障害者の高齢化で、今後自治体や老人施設と連携して対策を講じる必要があると考える。

## 3 採用・雇用管理等

日常生活への援助については障害者職業生活相談員の資格を有する従業員を配置しているほか、本社敷地内の寮に寮母が常駐し、食事と生活全般の世話をしている。

## 4 他社へのアドバイス

企業のリストラが進む中、そのしわ寄せは障害者にも及んできているのではないかと考える。企業が利益を追求するのは当然のことであるが、併せて社会貢献も必要なのではないかと考える。障害者雇用が促進されるには会社のトップの理解が最も重要と考えている。「健常者と障害者の共同参画社会の実現」のために少しでも力を注いでいただける経営者が多くなることを願っている。

## Aさんの場合

### 【職種・雇用形態】

建築物の基礎工事から棟上げまで。正社員。

### 【障害状況等】

知的障害者、重度。40代男性。

### 【採用の経緯等】

障害者施設を通じて昭和47年に採用した。全く身寄りがなく、生活も含め会社が面倒を見てきた。

### 【職務内容及び職務遂行の現状】

職長のもとで約15年間補助的な作業を行っていたが、現在は建築物の基礎工事から棟上げまで担当することができるようになっている。人間関係は少々苦手であるが、自動車免許を取得できるまでの社会性も身につけてきており、職場のリーダー的存在にまで成長した。性格が素直で温厚なこともあるが、企業活動の中でこそ開花し、磨かれた才能だと考えている。

### 【雇用管理】

現在は健常者の作業監督がいなくても、一人で作業を遂行することができるようになっており、特別な配慮は必要としていない。

## Bさんの場合

### 【職種・雇用形態】

住宅の基礎工事などの補助的な作業。正社員。

### 【障害状況等】

知的障害者、重度、字が読めず、情緒不安定な傾向がある。40代男性。

### 【採用の経緯等】

昭和55年採用。自治体の職親委託制度の適用者。

### 【職務内容及び職務遂行の現状】

当社に就職するまでは、常に行動を監督、命令される環境の中で育ってきたため、監督者がいないと一人では何も出来ない状態であったが、最近では一人でも仕事に没頭できる集中力を獲得しつつある。

仕事については、一定の分野での反復作業を経て一人でも遂行できるまでになっているが、監督者がいないと怠ける傾向もあり、声掛けを励行し、仕事に集中できる環境づくりを行っている。

### 【雇用管理】

表現力が乏しい面があるので、機会を見て声を掛け、感情をくみ取りながら管理・監督することを心掛けている。